

入選

小さな勇気で生まれる笑顔

群馬県 南中学校 2年 岡田 歩未

私のクラスや学年には、明るくて元気で、やさしい友達がたくさんいます。しかしそんな中、悩みをかかえている友達がいます。その子は元気いっぱい気づかいができる友達です。その友達は、中学一年生の後半から徐々に前のような元気いっぱいの笑顔を見せることが少なくなっていました。

なぜ、その友達がそうってしまったのか、私は知っていました。その子が少し間違えてしまったことを言ってしまう、まわりの一部の友達がいわゆる「悪口」を陰でコソコソと言っていたのです。そのときはやりすぎだと気づいていたけれど、なかなか声が出ず、注意をすることができませんでした。

日に日にふえる悪口。聞くたびに心がモヤモヤしてきました。私は注意をすることができませんでした。でも、その方法以外に私にできることはないか考え、いいことを思いつきました。ほかの人の意見を聞いてみるということです。私は、母の意見を聞いてみることにしました。すると母は私に

「困っている子がいるなら、まわりの目は気にしないで、自分自身の気持ちで声をかけてあげることが先じゃない？」

とアドバイスをくれました。

中学1年生のときはそれでよかったのですが、2年生になり、クラスもかわってしまいました。そのせいか、その子としゃべる回数も少なくなっていました。その子の様子を、みんなが心配していました。私もその子を少しでも元気づけてあげようと思い、朝や休み時間に「おはよう」などと笑顔であいさつを試みることにしました。

そして、ある日の授業後、その友達がたくさんの友達と話をしているのを見かけました。まわりの子はたくさん声をかけていました。

「どうしたの？」と声をかけてみると、

「いつも声をかけてくれてありがとう。」

と前とかかわらぬ笑顔でいってくれたので私もうれしかったし、よかったなと思いました。

あらためて、親切ってなんだろうと考えてみると、ふと、母に言われた言葉を思い出します。

「困っている子がいたら、もし自分が相手の立場だったらっていつも考えることが大切なんだよ。」

私はこの言葉をいつも心にいただいています。どんなに小さな親切でも自から行うことで、友情が深まったり、人助けができたり、相手を笑顔にすることもできます。相手がよろこんでくれると自分も笑顔になれます。お互いがよい気持ちになれるので、これからも親切な心を大切にしていきたいと思いました。